



広町自治会  
会長 猪俣 武雄  
802-2391

### 【3月3日はひな祭り】

令和3年3月3日はひな祭り、3が連続する幸運を呼ぶ数字のようですね。

季節の移り変わりは、人間世界の事情には関係なく順調に進んでいます。広町公園の「いずみ桜」も満開に咲き誇っています。



「灯りをつけましょ雪洞に・・・今日は楽しいひな祭り」の歌はどこからも聞こえて来ないようです。

二ヶ月続いた新型コロナウイルスの緊急事態宣言は、再延長が実施されます。安心の出来る平穏な日々に戻るにはまだまだ時間がかかるようです。

高齢者に対するワクチン接種の計画は、4月12日から泉公会堂で行われる予定ですが、順調に進むといいですね。

変異新型コロナウイルス感染も心配ですが、「マスク・手洗い・3密防止」の新しい生活様式はまだしばらく続くようですね

### 【新型コロナウイルスのワクチン接種の通知と会場等】

2月16日、横浜市では4月に予定している新型コロナウイルスワクチン接種の開始に向けて、対象者別の接種時期や個別通知、接種方法について発表しました。

混乱を避けるため、80歳以上＝3月下旬、75歳以上＝4月上旬、70歳以上と65歳以上＝4月中旬、以降は順次、接種券を発送すると発表した。

接種方法は市が設置する特設会場「集団接種」、身近な病院・診療所で行う「個別接種」、高齢者施設で行う「施設接種」の3つの方法で行う。泉区の集団接種会場は泉公会堂です。

ワクチン接種にあたり、スマートホン・パソコン・電話により予約できるシステムを新たに開設する。施設接種の対象者以外は、集団接種または個別接種のいずれかに予約して接種を受ける。具体的な方法は、後日発表する。ワクチン接種へ向け、横浜市では市民の問い合わせに応じる専用のコールセンターを開設した。コールセンターはワクチン接種に関し、全般的な相談に応じる。

『市のコールセンターは 電話0120・045・070』

### 【横浜市ワクチン接種券発送時期見合わせ、供給メド立たず】

3月1日、横浜市は市内での新型コロナウイルスワクチン接種について、当初3月下旬から予定していた個別通知の発送を当面見合わせると発表した。神奈川県が配分調整するファイザー社製のワクチンの供給量が、ごくわずかとなる見込みを受けた処置。集団・個別接種は4月26日週以降の供給量が判明するまで見合わせるとしている。

4月接種のためのワクチン供給量は、3月1日時点の情報として4月19日の週までに県全体でも、約2万1000人分のみで、横浜市分がごくわずかとなることから当初の予定は白紙となりました。予定が判り次第回覧等でお知らせします。

## 【広町自治会では】

コロナウイルス感染防止の施策がとられてから一年が過ぎました、昨年は中田連合自治会の活動をはじめ広町自治会の事業の多くが中止になりました。

緊急事態宣言発令中の間は、理事会は文書による連絡対応になっており、理事に皆さんからの意見が直接聞くことが出来ない状態が続いています

4月に予定している令和3年度の総会も、会員の皆さんが集まって開くことが出来るか微妙なところですよ

---

## 【道ばたに落ちているマスク】

使用済みのマスクはどのように処分していますか？ ビニールの袋に入れてしっかり袋の口を結び燃えるゴミに出しましょう。

道ばたに落ちているマスクはどうなるのでしょうか？他人の使ったマスクは触りたくないですよ。各自で責任を持って処分しましょう。



現在の不織布のマスクは自然界に放置された場合、長期間分解されずに残り続けてしまいます。

耳にかけるゴムのひもが、野生の動物や水鳥の足に絡まる事例も多数報告されています。

コロナウイルスがペットの犬猫に感染する心配も出ています。間もなくカラスの巣作りの季節です、色々な物を拾い集めてきて出来たのが、白い巣であったら笑い話ではすまされないのではないでしょうか。カラスはコロナウイルスに感染しないのかな???

---

## 【笑う門には福来たる】

「笑門福来」正月によく見られる言葉です、笑いの絶えない家には、幸せが来ると言われています

その昔、天照大神の弟・須佐之男命（スサノオノ命）が旅の途中で伊勢の地に差し掛かった時、日がどっぷりと暮れてしまい、泊まる宿を探すのに困り果てていました。旅の者のスサノオノ命に対して里の長者の巨旦将来は冷たい態度で突き放しました。

しかし、貧しくとも心豊かな蘇民将来は、スサノオノ命をこころよく迎入れできる限り温かくもてなしました。

その夜、眠りについたスサノオノ命は夢によって北の国から悪疫が襲ってくることを察知して、蘇民の家の方に茅の輪を編んで張り巡らしました。一夜明けると村中のどこの家も疫病に倒れたにもかかわらず、蘇民の家だけが無事に難を逃れたのです。

蘇民は茅の輪によって救われたことを喜び、スサノオノ命の不思議なチカラに感謝しました。

さらにスサノオノ命は旅立たれる際に「これからどんな疫病が流行っても“蘇民将来子孫家門”と書いて門口に示しておけばその災いから逃れるであろう」と言い残して去って行きました。以来、蘇民の家は代々栄えて、いつからか伊勢地方では、新年のしめ縄に魔除けとして「蘇民将来」の御神札をさげるようになったといわれています。正月のしめ縄を一年間掲げている地区もあります



「蘇民将来子孫家門」を縮めた「将門」が平将門に通じるのを嫌って「笑門」になったといわれている。語呂の良さから「笑う門には福来たる」を略したとも言われています。

一日でも早く【笑う門には福来たる】の日々になってほしいですね